質問 17

Murata Software

質問
過渡解析の時間刻み・出力間隔・リスタートの使い方

回答
・時間刻みは、流れ、熱、界面の中で最も速く変化する現象に合わせて決めます。通常の流体解析では結果テーブルの推奨時間刻み、VOF法では最大クーラン数1以下を目安にします。
・結果を保存する間隔は時間刻みとは別に設定し、必要な時刻を確認できる範囲で調整します。
・各ステップで残差が大きいまま次の時刻へ進む場合は、時間刻みを小さくするか、1ステップの最大反復回数を増やします。
・前回の安定した結果を初期値としてリスタートできます。元の結果を残したい場合は、モデルを複製して結果インポートを使います。

関連ヘルプ：
https://www.muratasoftware.com/products/mainhelp/desktop/ProjectCreation/AnalysisCondition/transientanalysistab_auto.htm
https://www.muratasoftware.com/products/mainhelp/desktop/ProjectCreation/AnalysisCondition/result_import.htm

Copyright © Murata Software Co., Ltd. All rights reserved.